

目的 動脈硬化性疾患の予防を目的として、レシナンを抗高脂血症として用いることが多くなつた。レシナンには原材料による違いの他、構造中の不飽和脂肪酸やコリンによる血中や肝脂質への好影響が期待されるものの、逆に界面活性剂的な作用による脂質吸収促進も警戒しなければならぬため、その評価は慎重を要する。そこで今回はラットに高コレステロール (Chl) 飼料を与えたときの、Chl 代謝に及ぼす大豆と卵レシナンの比較、大豆レシナンの精製法の違い、飼料へのコリン添加の有無、あるいは飼料中セルロースとの相互作用について検討したので報告する。

方法 SD系雄ラットを1群5頭ずつ用いた。Chl 0.5%、コール酸ナトリウム 0.25% 添加単合成飼料を対照とした。レシナン源として卵黄レシナン、大豆レシナンを使用した。後者はアセトン処理を行った粉末レシナンと、未処理の液状レシナンの2種を各々レシナン含量が等しくなるように飼料に添加した。また対照飼料からコリンを除いた飼料とこの飼料に液状レシナン3%を添加した飼料を調製した。これらの飼料で20日間飼育した後、採血、肝臓を得た。他にセルロースを添加した飼料に液状レシナン3%を加えて10日間飼育した。これらの実験の試料脂質量はいずれも酵素法で定量した。

結果 全群体重に変化なく、順調に推移した。血漿総 Chl 値は5日毎に尾部より採血定量したが、対照群はコリンの有無にかかわらず上昇した。レシナン群は液状レシナンがやはりコリンの有無にかかわらず低値を示した。また卵黄レシナン、粉末レシナンの順に低下効果は弱かった。HDLと肝 Chl はいずれもレシナンにより改善された。